

第10回定期総会を開催しました！

刻む会 たより

NO. 89

2023年6月30日

2023年5月20日(土)13時30分～16時30分
宇部緑橋教会にて第10回(2023年度)定期総会を開催しました。

正会員数131名(2023年5月20日現在)のところ、事前の書面議決書による出席30名、オンライン参加2名、実出席21名 計出席53名。よって、規約第17条及び19条に基づき総会の成立を宣言し、2022年度の活動報告並びに会計報告、2023年度の活動計画や予算等が審議され、全て承認を得ました。なお、別途、陪席2名(実出席1名、オンライン1名)もありました。

途中、「遺骨収集と返還に関する」協議会と題して、小畑太作事務局長の発題で、意見交換が行われました(内容は4～5頁掲載)。

また、総会に際して韓国・遺族会の楊玄会長よりメッセージ(2頁掲載)が披露され、また、特定非営利活動法人国際交流広場無窮花堂友好親善の会・理事長・吉柳順一さんよりご挨拶(3頁掲載)をいただきました。



※議案書をご覧になりたい方は事務局までご連絡ください。

活動総括(評価と展望)より抜粋

4月7日、参議院「ODA・沖縄・北方問題に関する特別委員会」で、高良鉄美議員が長生炭鉱犠牲者について質問にたちました。
林芳正外務大臣から「長生炭鉱の事故については幼い頃より祖父から聞いたことがあり、痛ましい事故と認識していること、ピーヤについても幼い頃現地に行った記憶がある。事情が許せば訪問も検討できればと思っている。ユン大統領の訪問は日韓関係の大きな一歩であり、日韓関係をさらに発展させていきたい」と前向きな答弁がありました。高良鉄美議員に心から感謝するものです。
「遺骨の収集・返還」を願う「遺族会」にとっても、「刻む会」にとっても、歴史的、画期的な国会情勢が開かれたことになりました。
ユンソンニョル大統領の「徴用工問題」に対する苦渋の決断によって、日韓両政府は1998年の「日韓共同宣言」を共通の認識、立ち位置にすることが確認されました。この宣言から朝鮮半島出身者の遺骨返還が政治課題になっていきました。

一方でこれは、人生をかけて人間の尊厳を取り戻そうと闘ってこられた、韓国の元徴用工の皆さんにとっては、不本意な決断、許しがたい決断であることを、私たち日本人は深く受け止め認識しなければなりません。
その上で、私たちはこの好機を逃がさず、日韓両政府に対し、「長生炭鉱犠牲者の遺骨収集・返還」を日韓政府の共同事業として取り組むことが、さらに日韓関係の友好に寄与することを訴え、両政府の現地訪問、発掘のための調査費の計上等々、この秋をめどに政府交渉の準備を進めていきたいと思います。
昨年の80周年追悼集会で「遺骨収集・返還」に向けて、「刻む会」としてはある意味悲壮な決意を含め発信し、この一年間、国会議員への面会を主に全力で活動を展開し、高良鉄美議員の国会質問に繋がりました。この成果のうえにさらに国会議員への訴え活動を展開していきましょう。
「韓国遺族会」は、3月30日、「刻む会」と共に韓国政府「遺骸奉還課」への働きかけを行い、本格始動しています。共に連携を強化し「遺族会」の活動を支えていきましょう。
今年が正念場と捉え、さらに一歩前に前進していきましょう。

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・佐々木明美

事務局 宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL0836(21)80003
カンパ振込先 ゆうちよ銀行 □座番号 01590・7・32405

年会費 《正会員》個人3,000円 団体5,000円
《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ <https://www.chouseitankou.com>
メール chouseitankou@gmail.com



韓国遺族会からのメッセージ

新緑が目には鮮やかな季節となり花々がいっそう光輝く季節となりました。

日々発展していく「刻む会」の定期総会開催に際し、井上、佐々木共同代表を始めとする会員の皆様に心よりお祝いと感謝の気持ちを申し上げます。

あれほど終りが見えなかったコロナパンデミックも徐々に終息に向かっているように今まで硬直していた韓日関係も良くなってきているように思えます。

先日の8日 訪韓された岸田総理が「当時、厳しい環境のもとで多数の方々が大変、苦しい、悲しい思いをされたことに心が痛む思いだ」と被害者達の痛みに共感した趣旨の発言を聞き私たち遺族達は僅かではありますが慰めを得ることができました。今後、未来志向的な韓日の関係のために更なる信頼関係を強化し新しい時代を開いていければと願っている次第であります。

振り返ってみれば3月に「刻む会」を代表して井上洋子代表と山内弘恵書記の韓国・行政安全部の訪問で「長生炭鉱犠牲者の遺骨発掘を韓国と日本が共同でおこなえば韓日関係に新しい変化が生じることは間違いないので、この韓日協同作業をぜひ韓国の大統領から日本政府にお願いして欲しい」と発言された内容が行政安全部の担当公務員達に大きな感動を与えました。

また、私達遺族会役員が西光寺と頼尊氏宅を訪問した時は、思ってもいなかった成果を上げることができ、これも今まで支えて下さった「刻む会」の皆様のお陰と心より感謝しています。

それに高良鉄美国議員が国会で直接外務大臣に質疑をされたことにより日本国内に中継され、知らせることができたことはすばらしい成果をあげたことになると思います。それだけではなく韓国語に翻訳された日本国会の質疑の過程の動画を遺族会会員全員が視聴しましたし、韓国の与党の代表であるチュホヨン（朱豪英）国會議員に直接報告し、「刻む会」の活動に対し韓国国会も関心を持つことが出来たという大きな成果をあげることができました。

これまで韓国ではありえなかった成果が得られたことはお二人の共同代表と小畑事務局長だけの力だけではなく「刻む会」の会員の皆様の努力の賜物だと思っておりますので今後とも刻む会と高良鉄美国議員がなされようとされる全てのことに私たち遺族会も共にすることを約束させていただきます！

皆様方がこのように物心両面から支えて下さっているおかげで韓国政府も長生炭鉱の犠牲者に対し多くの関心を持つようになりました。今後とも両国政府が同じ思いで動いたならば遺骨発掘、奉還も可能な日がそう遠くないのではないかと思います。その日まで皆様と一緒に力を合わせて頑張っていきたいと思っております！

最後となりましたが皆様のご健康とご家族に幸がありますように心よりお祈り申し上げます。

2023年5月20日

長生炭鉱犠牲者 大韓民国 遺族会 会長 ヤン ヒョン（楊玄）

証言資料集2、3の訂正について

韓国遺族会との関係は、韓国在住で遺族会との通訳をしてくださっている堤美貴さんのおかげで、細かいやり取りができるようになりました。この間、韓国行政安全部訪問や遺族会の西光寺訪問など遺族会独自の活動が活発になる中、改めて会の発足からの経緯確認や位牌等の調査も共同で行いました。その中で、今回、既に発行している証言資料集2、3の「刻む会のあゆみ」に記載されている韓国遺族会の結成日が間違っていることが判明しました。既に購入された方もおられると思いますが、以下の通り修正いただきますようお願いいたします。

証言資料集2 P5

誤) 1992年5月 韓国遺族会結成 → 正) 1992年3月 韓国遺族会結成

証言資料集3 P6

誤) 1992年 5月30日 大韓民国遺族会（以下、「遺族会」と呼ぶ）結成 55人
→ 正) 1992年 3月29日 大韓民国遺族会（以下、「遺族会」と呼ぶ）結成
韓国から68名 日本から2名

来賓挨拶



特定非営利活動法人
国際交流広場無窮花堂
友好親善の会

理事長 吉柳順一さん

飯塚で無窮花堂という朝鮮半島にルーツを持つ人々の遺骨を収集して遺骨返還活動を行っているグループです。1995年に立ち上げまして、前任、在日1世の裴来善（ペ・レソン）さんが呼びかけまして、2006年NPO法人として活動を引続き続けました。2000年に飯塚市の霊園に納骨堂を建てました。現在120体のご遺骨をお預かりしています。この間、遺族探しをやりました。今まで3人のご遺骨をお返すことができました。最初は2001年、2003年、間が開きましたけど、2017年に家族を探して、直接お会いしながら、遺骨を還すということをやってきました。私どもの元には、117体まだご遺骨がございます。残念ながら、本籍とか名前が分かったのは120体のうち20数体しかありませんでした。しかも、子や孫や甥っ子の時代になっています。しかも、親族に遺骨の引き取りを断られました。現実的にそういう形で、遺骨を見つけても、なかなか難しい状況がある。私どもは少しでもこの歴史を直視しながら、そういった訴えをしていきたいと思っております。

この長生炭鉱については、少なくとも、私どもより大きな力があるのは、韓国にきちっとした遺族会があって、遺族会ときちっとタイアップ組んで、遺骨の返還をやっておられるということが非常に大きな力になると思います。このことは韓国政府、日本政府を動かして必ず遺骨を還すという段取りに行きつくのではないかと思います。

私どもも、一会員として、一緒にがんばって参りたいと思っております。

北九州小倉に永生園（ヨンセウオン）という納骨堂がございます。これは大韓基督教会の小倉教会が管理しているんですけども、そこにも85体のご遺骨がございました。その遺骨のですね、13体、強制連行で連れてこられたと思われる方の本籍地、地名分かつている方の照会が韓国政府を通じてございました。行政安全部のデータ、21万人とも言われている不明者の申し出があったそうなんですけども、それと照合させました。13体送ったんですけども、そのうち7体がヒットしました。そしてそのうち4体は韓国政府に対して弔慰金等の請求をしている家族でした。そのうち直接連絡を取れたのは2体。2家族に連絡が取れて、遺骨を引き取ろうという意向を示されたということでありまして。昨年来からずっとそのことでやってまいりました。残念ながら、その段階では、韓国政府は強制連行、強制徴用で連れてこられた人の遺骨だから国家の謝罪がなければ引き取るべきではないということに断ってきました。先月ですね、大韓民国の大使館の大使が来て、状況を直接聞きに来るといふことになり、まだ、はっきりどうなるかということは言えませんが、そのうち来月には韓国の行政安全部の人が来てこの遺骨問題をどう処理するかどう取り扱うかという話をするところまで動きが出てきました。それは、私どもは、歓迎すべき事例ではないかと思っております。

私どもが持っている遺骨、永生園（ヨンセウオン）にある遺骨、そして、海の底まだまだ眠っている遺骨の返還に向けて少しでも動きが出てくればと思っておりますし、私もそれに向かって、微力ではありますが、精いっぱい頑張らせて参りたいということをお誓い申し上げます。今日の総会のご挨拶とさせていただきますと思います。

今回の総会で、運営委員に立候補してくださいました方がおられました！
6月の運営委員会で承認し、正式に運営委員に就任していただくことになりましたので、ご本人のご挨拶を掲載させていただきます。
なお、東京に住んでおられるので、会議はオンラインで参加される予定です。
新しい仲間が増えてとても嬉しいです！

この度、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会の運営委員への就任を認めて頂きました山本利明 です。

簡単な自己紹介と抱負を述べさせていただきます。

金融機関に40年ほど勤務。その間に、公益財団法人の事務局長を経験しました。その後、大学の教員を10年間務め退職。現在は東京に在住しております。

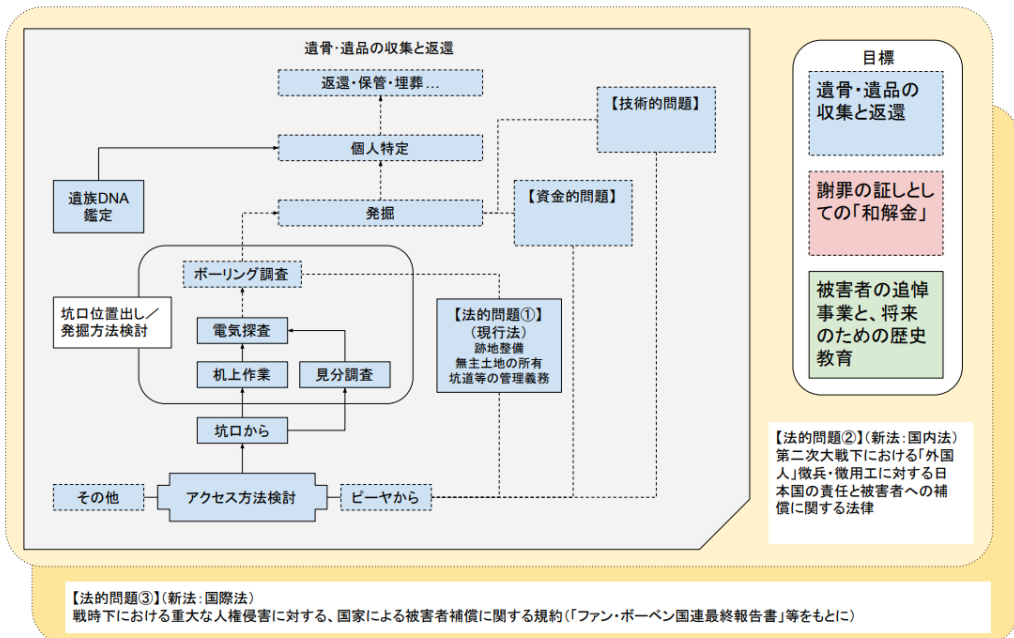
この会には会員として参加してきましたが、会がこれから様々な課題に取り組みされるなかで、私の経験や知識がお役に立てる場面があるかと考え、運営委員に立候補しました。よろしくお願い申し上げます。



微用工問題、特に長生炭鉱水没事故問題の解決のための試案(小畑太作)

遺骨収集と返還に 関する協議会

発題
小畑太作事務局長



私から15分間発題(課題の発表)をして、皆さんで深めていただけたらありがたいと思います。資料は、去年別刷りで配った資料と中身は一緒なので、「これ」については改めて説明を細々はしません。今日、申し上げたいのは2点です。

一つ目に申し上げたいのは、ロードマップと言われるもの(資料)が必要だと言っていることです。市民団体のほとんどが持っていないわけです。「刻む会」の場合も、これは私案であって「刻む会」のものではない。話にもなっていないのですが、私としては「刻む会」が10年前に遺骨収集と返還ということを始め、歩んでいる中で、必要だということ認識に至っているので提起しているわけです。

何で必要かということをお願いしたいと思います。一つは、こういうものを描くこと、会として持つということは、皆が道筋を可視化して共有しやすくなることです。後ほどまた審議していただく活動計画は、本当はこういうものを下敷きにして、今年度は何していくのかということであるべきなのです。もう一つは、こうした道筋を描くというのは、必ず思想が現れ、根本的な検討が出来ることです。「刻む会」でも色々な立場や考え方がいるわけで、誰のを採用するという事ではなくて、お互いにそういうものを披瀝し合っていて、きちっと協議をしてやっていくのは、お互いが学び合っていくことになります。逆にデメリットでいうと、思想を検討しないと間違いなく多数派に流れていくのです。どれだけ沢山の人を集めて世論形成をして...という発想にしかならない。それで行くのかどうかということを合意形成し

ていくための機会が、これを作ろうとするときに生じるということなのです。そうした作業もなく、唯々、多数派に流されていくようなやり方をしていくと、私なんかはだんだんモチベーションが下がって行くし、実際下がって来ているのです。

ちょっと遡りますけれども、以前は、追悼碑を建てるのが目下の課題でした。あれはあれで大変だったわけですが、今、今の遺骨収集返還と比べたら、かなり作業工程は少ないし複雑さも無いのです。けれども、それはそれで大変で、もうちょっと全体を描いて臨んでおけばよかったです。思っていたことが多々ありました。具体的に言うと、例えば、「刻む会」が発足してから、私が入ったのは2009年で、その4年後の2013年に追悼碑を建てることになるのですが、私が入った2009年、会は発足から20年近く経過していただけたとしても、事務局長として私が入って、当初から追悼碑を建てると言っていたのに手持ちが70万円ほどしかない。それから、土地を手に入れたのだけれども、誰が持つのかという問題がある。当時の代表の名義にして登記をしたわけです。そうしたら、宇部市が固定資産税を課してやる。当然と言えば当然なんだけれども、それで、一生懸命減免措置をしてもううべく色々行動したのですが結局してくれない。してくれないままに20万円ほど税金として宇部市に払っているわけです。そうなることは前もって分かることだったわけですが、将来を描かないものだから、そういうふうになってしまって、せっかく皆さんが一生懸命寄付して下さるお金なんだけれども、そんな風に使ってしまう。そんな風になってはいけな

いのです。ついでに言っと、土地はどうしたかというところ、この教会が宗教法人格を持っているから、本当は特定宗教で持つのもどうかと思っただけでも、個人名義よりは公共性があるし、非課税ですから、こちらの名義で登記をしました。こうしたことを反省しているならば、今、私が申し上げていることは、当然、今やっている事業としては必要だと私には思え申し上げているということです。

二つ目は、資料にあるロードマップ自体のことを申し上げるんですけれども、諸々進めて行くことになっていくかということ、間違いなく障害として生じるのは法的問題だということです。

海底坑道にある遺骨の発掘という作業においては、法的問題が発生するということです。先程、林外務大臣が国会の答弁で触れたとの報告がありました。林さんが、よろうと言ったらできるかといったらできない、というかしちゃいけない法律がないから。法治国家ですから。財政民主主義というのが原則としてあって、憲法83条でしたか、ちゃんと国会を経て支出をしなければなりません。それをしないと国葬、県民葬と同じわけです。最終的には必ず障害として登場してくる。

そして法の中身の問題としては、謝罪が必要なのかです。2016年でしたか、戦没者遺骨収集返還法が設置されて今も施行途中ですけれども、あれと私達が必要とする法の質的差というのはここです。謝罪を前提にした法案は、しばしば言われる表面的な「人道主義」では通らないのです。過去の侵略戦争を正当化する人、いわゆるヤスクニ派からの反対と抵抗にあって法案が成立し難

くなるのは明らかなのです。が、今の「刻む会」の活動には、そうした視野は全くない。ロードマップがないからです。

仮説、推察も含めてしゃべりましたけれども、ロードマップは全体を見て自分等は今どこにいるのか、そこから訴えていく力というのが発生するわけで、ぜひそれを見据えて、と言うよりも現段階は見据えていないということを見据えて、やっていく必要があるのではないかと言うことです。と言っても、細かな部分は、手探りでやっていくしかないと思いますけれども、全体を見て手探りなのと、先を見ていない手探りでは全然違うんじゃないかと私は思っています。以上、私からの発題を終わりたいと思います。

決算報告・予算案の報告及び
協議会での発題をする
小畑太作事務局長



活動計画案を提起する
佐々木明美共同代表



活動報告をする
井上洋子共同代表



会計監査報告をする
木村和彦さん



議長：内岡貞雄顧問（右）
書記：山内弘恵書記（左）



閉会挨拶をする
木村道江顧問

活動日誌（前回のたより以降） 太字は記事掲載

- 3/21(火) 『たよりNo.88』発送作業
- 3/26(日) 立命館大学・景井充教授他(4名)FW
- 3/30(木) 韓国・遺骸奉還課訪問(韓国・世宗市)
- 4/7(金) 高良鉄美参議院議員が「ODA・沖縄・北方問題に関する特別委員会」で長生炭鉱問題を質問
- 4/9(火) 韓国遺族会(4名)来日
- 4/10(月) 韓国遺族会が西光寺等訪問
- 4/12(水) 山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
- 4/13(木) 第1回運営委員会
- 4/17(月) 遺骨奉還宗教者市民連絡会が長生炭鉱問題含んだ「声明」を厚生労働省に提出
- 4/25(火) 大阪公立大学・明戸隆浩准教授(3名)FW
- 4/28(金) 真相究明ネットワーク事務局会議(web)
- 4/29(土) 笹の墓標展示館全国巡回展第1回現地
- 5/3(水) B I Y P 日韓青少年交流韓国・富川市
- 5/6(土) 第2回運営委員会
- 5/10(水) 総会議案書等発送作業
- 5/20(日) 山朝鮮初中級学校補助金カットに対する学事文書課への申し入れ及び座談会参加(山口市)
- 5/25(木) 第10回定期総会 発送名簿整理
- 5/25(木) ガマフヤー等政府交渉(東京都)
- 5/25(木) 坑口付近草刈
- 5/26(金) 愛知人権啓発企業連絡会(26名)FW
- 5/27(土) 笹の墓標展示館全国巡回展第2回現地
- 6/1(木) 実行委員会(下関市)
- 6/12(月) 山口県・国際課表敬訪問(山口市)
- 6/13(火) 真相究明ネットワーク事務局会議(web)
- 6/14(水) 第3回運営委員会
- 6/18(日) 山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
- 6/20(火) 日韓中学生国際交流発表会(山口市・阿知須平和フェスタ実行委員会)

フィールドワーク報告

コロナ禍でもフィールドワークに来てくださる方々もおられ、本当に感謝しています。コロナウイルス感染症も5類に変わり、今後フィールドワークに来てくださる方も増えるのではと期待しています。この3月から5月は、大学の先生方や大企業の方々によるフィールドワークがありましたので、写真を中心に、様子をご報告したいと思います。

- ★ 3/26(日) 立命館大学・景井充教授他(4名)FW
- ★ 4/17(月) 大阪公立大学・明戸隆浩準教授(3名)FW
- ★ 5/26(金) 愛知人権啓発企業連絡会(26名)FW

5/26(金) 愛知人権啓発企業連絡会(26名)

コロナ前の2019年秋より企画されていたフィールドワークです。3年越しで実現しました。



西光寺でDVD「アボジは海の底」を視聴した後、井上洋子共同代表がお話して、実際の位牌を見ていただきました。



西光寺を出て追悼ひろばへ移動。
全員徒歩での移動!



「追悼ひろば」から、さらに歩いて「男たちの碑」まで。途中、合宿所跡など見学しながら結構歩きました。



代表の方が献花をしてくださいました。



海岸から床波駅まで最後の歩き！
駅前では反省会。
暑い中、本当にお疲れ様でした！

「男たちの碑」から私たちが作った道を通り、坑口跡付近へ。



海岸で全員で献花をしてくださいました



坑口からは道を渡ればピーヤの見える海岸



3 / 26(日) 立命館大学・景井充教授他(4名)

長く活動を続けてこられた皆さんであればこそそのフィールドワークを経験させていただき、感謝に堪えません。

お聞かせいただいたお話や感じたことなど言葉にしつつお礼をと思いながら、新年度開講と組合書記長の仕事に忙殺されて、延び延びにならなくなってしまいました。

去年は筑豊・三池と下見した後で、帰りの途上に宇部に寄らせていただいたんですが、今回は最初に宇部に伺わせていただきました。間違っていないませんでした。

宇部での徴用・強制労働の歴史を学んだあとで筑豊や三池の炭鉱関連施設を約30か所ほど訪ね歩きましたが、世界遺産への登録でまだ浮足立ってたりしていることもあるのでしょうか、日本の近代化を肯定するスタンスがなお前面に出ています。

宇部市石炭記念公園とおおよそ同じ、「近代化の礎」論でした。私が調べた限りでは、もちろん散発的には、三池では集治監の外堀や「解脱の塔」また「復権の塔」、炭鉱で落命した徴用工を追悼する碑など、思いを寄せ続ける人のあることを知らせるものはあちこちにあり、一つ一つに胸塞がる思いを禁じえませんが、「刻む会」の皆さんのような深さと密度で、炭鉱での強制労働・徴用の歴史を厳しく世に問い続けている団体はありませんでした。

過去の歴史的な事件とせず、まさに今の問題として掘り起こしと問題提起を続けている活動は少ないです。

私は、長生炭鉱で起きたことは、収容者を死に追いやった入管のシステムや人権を軽んじ続ける外国人労働者への処遇など、現在のさまざまな問題に地続きだと思っていて、そうしたところに現れる近代日本の基本的特質を許してはならないと考えています。

※景井充教授からのお手紙の一部を了解を得て掲載しました。



韓国から現地を訪問

韓国から6月4日(日)に開催された朝鮮学校の運動会の観覧に来られた3組の赤ちゃん連れのご家族が、翌日、6月5日(月)長生炭鉱の跡地を訪問してくださいました。その時の感想をご紹介します。

赤ちゃんはまだ小さいので長時間滞在することはできませんでした。しかし、私たち3組の夫婦で感じた「歴史を伝えていかなければならない」という気持ちが、今日一緒に長生炭鉱を訪れた1歳の赤ちゃんにも伝わるだろうと思いました。これらの赤ちゃんに私たちの歴史の未来を託していくという思いです。

子どもたちが大きくなったら、もっといろいろなことを感じてくれると思います。



4 / 17(月) 大阪公立大学・明戸隆浩準教授(3名)

嵐のような、大雨と風の強い日でしたが、熱心にお話を聞いてくださいました。



遺骨奉還宗教者市民連絡会の「声明」に感謝

顧問 内岡 貞雄

一 はじめに

遺骨奉還宗教者市民連絡会（以下、連絡会）は二〇一八年一月に浄土真宗一乗寺住職の殿平善彦さんらを世話人に、浄土宗正明寺の森俊英住職を事務局長として発足した。殿平ご住職は、二〇一五年九月に共同代表として、北海道各地の韓国出身強制労働犠牲者の遺骨一一五体を全国各地の寺を巡回し、最終地の光明寺（下関市）で追悼集会を行った方である。私は犠牲者 金益中（キム・イクチュン）さんの甥 金敬洙（キム・ギョンス）さんの言葉が記憶に残る。

「このたびは、殿平ご住職をはじめ多くの皆様のご尽力で、亡き叔父の遺骨が韓国の地に帰れることを心から喜んでいきます。唯（ただ）、合葬された叔父の遺骨にしかお遣いできなかったのは残念です」。

「刻む会」は、翌年（二〇一六年一月）第74周年長生炭鉱水没事故犠牲者追悼集会第二部で、殿平さんを招聘して「命を届ける旅―強制労働犠牲者遺骨奉還」と題する講演を行ってもらった。「加害を行った者はきちっと謝罪を行わなければならない。そういう意味でも長生炭鉱の海底下のご遺骨は収集・返還しなくてはならない」という力強い言葉をいただいた。

二 長生炭鉱の遺骨収集について

長生炭鉱水没事故の犠牲者一八三名（日本人四七名、朝鮮人一三六名）である。山口県の国への

報告は、遺骨なしとするが、対象外として宇部市に一九四二年の水没事故で亡くなった一三三名（一三五名の（韓国・朝鮮人）の遺体が海底に埋まったままとした。宇部市は、遺骨の所在なし、と恣意的に省略している。宇部市は省略するにあたり、公費を使ってわざわざ厚労省に出向いている。自治体の対応は、犠牲者に寄り添ったものとはとても言えない。

今回、連絡会による厚労省担当者との意見交換で、長生炭鉱の現地調査を促していただいたことは「刻む会」にとっても追い風となり得ることであった。

「刻む会」の国政府交渉は、過去二回行われた（二〇一八年二月、二〇一八年十二月）。三回目の交渉はコロナでやむなく中止となった。二〇一九年一〇月付けの「刻む会」の厚労省への質問状は、同年一二月に参議院議員福島みずほ事務所の秘書さんが口頭で回答をいただいた。その内容はおよそ次のようであった。「現在、長生炭鉱は調査確認の遺骨対象になっていないが、今後の調査対象から外すことはしていない。海底への調査を可能とする技術や予算などの条件がいかに整うかで、状況は変わり得る」。

今年四月のODA沖縄北方問題特別委員会、高良鉄美参議院議員が長生炭鉱を取り上げてくださった。故小川信元参議院議員以来、約三十年ぶりの質問であり、「刻む会」にとって大変意義のある質問だった。

今後は、綿密な戦略（院内学習会や院内意見交

換）を考え、厚労省・外務省の杓子定規な対応を変えていく方策が不可欠となる。

超党派の議員立法の「戦没者遺骨収集推進法」が五年間の延長となった。（二〇二四年度から五年間延長）沖縄戦の遺骨問題の取り組みに学び、先達に助言をいただきながら、「刻む会」としての方策を立てることが大切だ。

次ページに遺骨奉還宗教者市民連絡会「声明」全文を転写させていただいた。「刻む会」として心から感謝いたします。



厚労省に声明を提出（2023. 4. 13）

【写真提供：佛教タイムス社】

2023年4月8日

声 明

被害者の尊厳を回復し、遺族・関係者との対話・交流を尽くさずには、植民地支配の清算はなしえません

遺骨奉還宗教者市民連絡会



3月6日、韓国政府は「強制徴用大法院判決関連解決法」を発表し、3月16日には日韓首脳会談がおこなわれました。日本の多くのマスコミは日韓関係の正常化を歓迎するという報道ですが、私たちは日韓政府の動向に強い懸念を覚えずにはられません。被告企業の賠償金の支払いを韓国政府（「日帝強制動員被害者支援財団」）が肩代わりするとのことですが、日本政府や当該企業は被害者・遺族に誠意を示す対応をしていません。日本政府は1965年の「請求権協定で解決済み」だという見解を繰り返していますが、このような国際人道法の進展からも大きく逸脱した法解釈は、被害者・遺族との溝を深めるばかりだと危惧しています。

植民地支配下で日本が朝鮮半島の方々に及ぼした被害や苦痛を真摯に認識し、その責任を受けとめて行動することが不可欠です。今、日本政府と責任ある企業が、被害者の尊厳を回復するためにすべきことは多くあります。私たちは遺骨に関することを提示します。

戦時の強制労働の下で死亡した朝鮮人犠牲者の遺骨の返還が滞っています。2004年の日韓首脳会談において、韓国側より遺骨の調査と返還が希望されました。日本側はこれに応え、全国の宗教教団、納骨堂等に調査を依頼し、遺骨調査を行いました。しかし返還に至った遺骨は一部の軍人・軍属の遺骨に限られ、強制労働犠牲者の遺骨は日本政府の手を通しては1体も返還されていません。

日本政府はこうした現状を鑑み、今こそ山口県宇部市の長生炭鉱犠牲者の調査をはじめ、全国に散在する戦時下に死亡した朝鮮半島出身者の遺骨について、DNA鑑定の実施を含む積極的な調査と追悼、返還をすすめるべきです。

何よりも、遺骨となった方々の死に至った経緯を可能な限り調査し、犠牲者や遺族・関係者への真摯な謝罪の意を明示したうえでの返還でなければなりません。こうした日本政府と当該企業の誠意こそが被害者の尊厳を回復する大切な道程であります。私たちの住む近くに遺骨が今も置かれ続けていることから、遺骨返還は私たち宗教者、市民もともに責任をもって取り組むべき課題です。

強制労働については、犠牲者遺骨返還など未解決の問題があり、被害者の尊厳を回復するために、日本側の誠意ある対応が必要です。日本政府と企業がこのような問題に真摯に対応することを求めるとともに、私たちも遺骨返還に努力することを表明し、声明とします。

以上

【当会事務局】

〒590-0964 大阪府堺市堺区新在家町東 4-3-15

浄土宗 正明寺内 森 俊英 Tel 090-6979-2661

BIYPの活動 報告

2023.6

Bucheon IKKI-IKKI-ASIA YOUTH EXCHANGE PROGRAM (SINCE 2013)



10th BIYP 韓国富川市の友人を訪ねた旅の報告 SHIHO

BIYPでは、今年2月長生炭鉱追悼式に合わせて来日した韓国富川市の放課後アカデミー「クマ」の友人を訪ねる旅を「共に過ごす私たちの日々」と題して5月3日～7日、日韓共同で企画し実施しました。

参加したのは宇部市、山口市の中学生5名、高校生1名、大学生3名、ボランティア4名の総勢13名。旅の前には宇部緑橋教会で事前学習を実施。「韓国の文化や街並みについて」「受験事情について」「日韓の歴史について」等それぞれが設定した課題を学習し発表。

そして釜山フェリー「SEONG HEE」で憧れの韓国に到着。釜山からKTX（日本の新幹線にあたる）に乗って一路ソウルへ。大都会のソウルに一同感嘆。地下鉄で交流の舞台、友人の待つ富川市へ到着しました。

富川の交流宿泊施設には約30人の中学生、高校生、ボランティアが私たちを待っていてくれました。3か月ぶりの再会にはじめは人見知りと緊張が…。でも子どもたちはレクリエーションを通してすぐにうちとけ、1日目の晩は23時まで大交流会。日本のジュニアは船中で練習したK-POPダンスを披露。韓国の友人たちが「キャーキャー」と喜んでこたえてくれました。就寝は自然の中で雨音を聞きながらワイルドにテント宿泊でした。

2日目は日韓ミックスチーム3班に分かれてソウルや富川の街を散策。コースは自分達で話し合い決定。韓国衣装を着てプリクラをとったりサムギョブサルを食べたりDAISOでお買い物したり…。お互い言葉が分からず戸惑いつつも、みんな協働で物事を遂行することが楽しくて仕方ない感じでした。中にはスマホの翻訳アプリを駆使する中学生、韓国語教室でハングルペラペラの中学生や韓国ドラマで聞き取りが得意な大学生もいて大人のほうが助けられ、時代の変化を感じました。2日目の夜は班別活動報告会のあとホームステイへ散らばりました。各家庭で韓国の日常生活を体験させてもらった参加者たち。富川は下町風情のある街でおいしい食堂もいっぱい。夜のコンビニに出かけたり、兄弟姉妹と会話したりとそれぞれに夜遅くまで交流を楽しんだようです。

3日目のお別れ会では、日本の中学生から「こういう国際交流の活動はもっとあったほうがよいと思う」「男女とか国籍とか関係なく交流できてよかった」「人生で一番しあわせな時間だった」など感想がありました。

今回の旅は、2月に長生炭鉱の浜辺ではじめて出会った若い人たちが、同じ時間、体験を共有することによって少しずつ打ち解け、仲良くなり、お互いを理解したい、相手の国に行ってもっと相手のことを知りたい、文化や歴史、生活事情を知りたいという気持ちがはぐくまれ、それを形にした旅でありドキュメンタリーをみているようでした。

それぞれに大切な友人をみつけたようで、旅の後もSNSで交流が続いているようです。相手をだいに思う気持ちから、日本と朝鮮半島の悲しい歴史をみつめ、今を語り合い、ともに思いやる未来をつくる、そんな活動をこれからも地道に続けていけたらと思います。

【一般会計】

(円)

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳入					
1	会費	600,000	16,000	572,000	95.3%	
2	寄付金	925,000	101,243	837,916	90.6%	※
3	物販	30,000	22,900	52,400	174.7%	
	証言・資料集	25,000	22,900	50,700	202.8%	
	その他	5,000	0	1,700	34.0%	
4	雑収入	4,000	0	3,740	93.5%	
5	前期繰越金	127,138	0	127,138	100.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	1,686,138	140,143	1,593,194	94.5%	

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳出					
1	事務費	40,000	5,252	39,757	99.4%	
2	広報費	425,000	89,220	322,777	75.9%	会報誌、HP
3	会議費	66,000	52,188	71,618	108.5%	会場費1年分、交通費補助
4	追悼碑管理費	10,000	330	10,403	104.0%	電気代
5	活動費	900,000	(64,363)	832,723	92.5%	
	学習会等	100,000	25,640	56,735	56.7%	京都学習会付替
	追悼集会	600,000	0	572,859	95.5%	
	その他活動	200,000	(90,003)	203,129	101.6%	遺骨収集特別会計振替
6	他団体会費等	50,000	20,000	38,000	76.0%	無窮花堂友好親善の会、強制動員真相究明ネットワーク、関東大震災時朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会
7	雑支出	20,000	1,216	5,717	28.6%	
	手数料	10,000	1,216	5,552	55.5%	郵便局
	その他	10,000	0	165	1.7%	
8	予備費	75,138		0	0.0%	
	小計	1,586,138	103,843	1,320,995	83.3%	
9	繰越金	100,000	36,300	272,199	272.2%	
	合計	1,686,138	140,143	1,593,194	94.5%	

※寄付者（敬称略）

石坂 浩一 石田 正人 一條 三子 岩瀬 三郎 内山 賢次 落合紀久子 加藤 真
 金子 尚子 木村 和彦 坂 貞子 関谷 陽子 都 相太 土井 桂子 福田 紀子
 森次美代子 利元 克己
 NPO ターラ The HOUSE for XX(未来永劫母であることを望む女性たちのための家)
 観音宗 その他匿名5件

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,218,889				
			繰越金	1,218,889	
合計	1,218,889		合計	1,218,889	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,577,040		派遣費	192,043	韓国、日本政府
			繰越金	1,384,997	
合計	1,577,040		合計	1,577,040	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

書籍のご案内

待望の第4集発刊!

「刻む会」発刊
証言資料集 全4冊



絶賛！好評発売中！
頒布価格 1冊 300円
2冊セットで 500円
3冊セットで 700円

まだお持ちでない方！
ぜひお買い求め下さい！



新刊

日帝強制動員被害者支援財団翻訳叢書

新刊

5冊セットで頒布
送料・翻訳基金カンパをお願いします

4冊セット 3000円（送料込）



- ・「朝鮮女子勤労挺身隊」労務動員の調査
- ・太平洋事件の調査
- ・北海道東川町江卸発電所強制動員被害真相調査
- ・タンコ（炭鉱）だって？
- ・強制動員名簿解題集2



- ・報告書「朝鮮人 BC 級戦犯に対する真相調査—捕虜監視員の動員と戦犯処罰の実態を中心に—」
- ・報告書「ハワイ捕虜収容所における韓人捕虜に関する調査」+韓国語の「太平洋戦争実記集」（沖縄の阿嘉島への動員、特設水上勤務 103 中隊）
- ・口述記録集「朝鮮という私たちの国があったのだ」（大阪造兵廠、群馬中島飛行機、沼津軍属、佐世保、呉、東京陸軍被服廠、捕虜監視員など軍属として日本、東南アジア、中国への動員）
- ・口述記録集「ポンポン船に乗って海の幽霊になるところだったよ」（忠清道から福岡、長崎、佐賀など九州への動員）

ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

今後の予定

- 2023年7月11日(火) 10:30~13:00
第4回運営委員会
- 2023年8月18日(金) 10:30~13:00
第5回運営委員会
- 2023年9月27日(水)~30日(土)
北海道・笹の墓標展示館全国巡回展 in 下関
- 2023年11月26日(日) 9:00~11:00
日本母親大会 in 山口 分科会

《同封物》
振替用紙

事務局より	会員動静 (2023年6月12日現在)
正会員	122名 (総会比-9名)
賛助会員	254名 (総会比-38名)
寄付者	110名 (総会比-13名)
計	486名 (総会比-60名)

この度、経費削減のため、発送先名簿の整理を行いました。
3年間会費等未納の方は、原則、削除することとし、そのため、会員数が総会比で減少しています。ご理解下さい。
会員・寄付者募集中！知人・友人にぜひ一声お願いします！